

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年前期	1	2	必修（教職必修）
担当教員			
建築学科教員、鈴木 孝典			
添付ファイル			
講義概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築を初めて本格的に学ぶ1年生を対象として、「建築学」の概要を各教員の専門分野に近いトピックをオムニバス形式で教授する。</li> <li>・ 建築の各分野について、その概略を理解し、建築学科の理念と専門分野科目の選択時に役立つ基礎を養う。</li> <li>・ キーワード：建築</li> </ul>			
授業計画			
1	概論の概要、地震による建物の揺れ：崔	建築概論の全体スケジュール、進め方、学習方法等について説明する。地震で建物はどのように揺れ、どこに損傷を受けるかを模型を使って詳細に説明する。また、地震に強くするためにはどのように補強すればよいかについて説明する。さらに、上記の講義内容を踏まえて、地震と建物に関するカードゲームを行い、地震と建物の揺れの関係について確実に理解させる。（AL①、AL②）	
2	津波被害と建築物の耐津波性能：崔	2011年東日本大震災における津波被害および現行の耐津波性能評価手法（AL①、AL②）	
3	快適な空間*ZEB：石川	静岡県下の学校教室の事例をみながら、これからの建築物に求められる環境性能について考える。（AL①、AL②）	
4	静岡の建築 その1～建築作品を見る／読む／体験する／考える／描く：脇坂	静岡県下における優れた建築作品を取り上げ、時代、建築家、意匠、地域性、用途、構法などの観点から概説する。「質の高い建築」と「ダメな建築」の何が違うのか、「質の高い建築」がわれわれの生活に何をもたらすのか、各自が考え、将来、「質の高い建築」を創造する建築家／エンジニアとなるためのきっかけとしたい。（AL①、AL②）	
5	コンクリート造建築物の耐久性：エルドンチオル	コンクリートの耐久性、鉄筋コンクリートの劣化、建築物の耐久性確保および建築物の寿命について事例を交えて解説する。耐久性、劣化、寿命について考えるきっかけ造りとし、今後、各自が設計するであろう建築物のライフサイクルについての思考力を養うことを目指す。（AL①、AL②）	
6	空間を作る要素、形態、構造、環境：田井	空間とは何なのか。身体の延長としての空間の概念を、3つの要素に分けて具体的に解説します。スライドを用い田井本人が設計した案件を含め、海外の名作などを中心に建築を空間に寄せて説明します。（AL②、AL⑤）	
7	建設業界について：鈴木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設業界を取り巻く環境について</li> <li>・ 建設業界地図、業態、業種、バリューチェーン</li> <li>・ これからの建設業界（AL①、AL②）</li> </ul>	
8	建設施工について：鈴木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築の魅力と現実・・・ものづくりとマネジメント</li> <li>・ これからの現場管理</li> <li>・ ビジョンを描け（AL①、AL②）</li> </ul>	
9	建物の地震被害：渡辺	1995年阪神淡路大震災や2011年東日本大震災などで多くの建築が被害を受けている。地震被害の実例を紹介し、被害を防止するために必要な耐震設計の重要性を考える。（AL①、AL②）	
10	環境と住宅：鍋島	理想の建物とはなにか？何も知らない状態でワークショップを通じて答えを出す。（AL①、AL②）	
11	遺跡とは何か：林	建築史分野への導入として、人類の建築遺跡について概観する。遺跡は何を目的に作られたか、なぜ残されているか、どのように継承していくか、建築遺跡を巡る過去と現在と未来を考える。（AL①）	

	12	建築関係試論-1:長尾 「建築」は様々な要素との関係でつくられており,「建築」への関わりの作り方も多様である。実作を通じてその一端を紐解きながら,「建築」の在り方を試考する。前半部分 (AL①) 【課題】レポートを課す。(AL③、AL④)
	13	建築関係試論-2:長尾 「建築」は様々な要素との関係でつくられており,「建築」への関わりの作り方も多様である。実作を通じてその一端を紐解きながら,「建築」の在り方を試考する。後半部分 (AL①) 【課題】レポートを課す。(AL③、AL④)
	14	静岡の建築 その2~建築作品を見る/読む/体験する/考える/描く 静岡県下における優れた建築作品を取り上げ,時代,建築家,意匠,地域性,用途,構法などの観点から概説する。「質の高い建築」と「ダメな建築」の何が違うのか,「質の高い建築」がわれわれの生活に何をもたらすのか,各自が考え,将来,「質の高い建築」を創造する建築家/エンジニアとなるためのきっかけとしたい。(AL①、AL②) 【課題】講義後に実際の建築空間を体験し,レポートを作成する。(AL③、AL④)
	15	技術開発の最前線:渡辺 建築技術の開発は日進月歩である。特にエンジニアリング系(構造・材料や環境・設備)分野では活発な技術開発が行われている。最新の技術開発事例を紹介・解説する。(AL①、AL②) 【課題】講義内容に関連したレポートを課す。(AL④)
授業形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式:相互対話型、レポート</li> <li>・アクティブラーニング:①:15回、②:15回、③:14回、④:0回、⑤:0回、⑥:0回</li> </ul>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員による授業を通じて、個々の内容を理解する。</li> <li>・建築を学ぶ初学者として、今後の専門分野科目の選択および進路の参考とする。</li> <li>・建築に関する各分野の専門に触れ素養を身につける。</li> </ul>	
評価方法・フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員が課すレポート(合計100点)の総合成績で評価する。</li> <li>・原則として、レポート等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。</li> </ul>	
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各講義で課したレポートなどで評価する。</li> </ul> 秀 : 総合点90点以上 優 : 総合点80点以上90点未満 良 : 総合点70点以上80点未満 可 : 総合点60点以上70点未満 不可 : 総合点59点以下	
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書:特になし。適宜プリント配布。</li> <li>・参考書:特になし。</li> </ul>	
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目であるため、1年生は全員履修すること。</li> </ul>	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15分以上の遅刻は欠席扱いとする。</li> <li>・講義には必ず出席すること。</li> <li>・他の者の迷惑になるので私語は厳禁する。</li> </ul>	
準備学習と課題の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある建築分野の書籍や雑誌には目を通しておくこと。</li> <li>・興味のある講義には質問を用意しておくこと。</li> <li>・各回、予習復習をそれぞれ1.5時間程度行うこと。</li> </ul>	
ディプロマポリシーとの関連割合(必須)	知識・理解:40%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:10%, 態度:5%, 技能・表現:15%	
DP1 知識・理解		
DP2 思考判断		
DP3 関心意欲		
DP4 態度		
DP5 技能・表現		